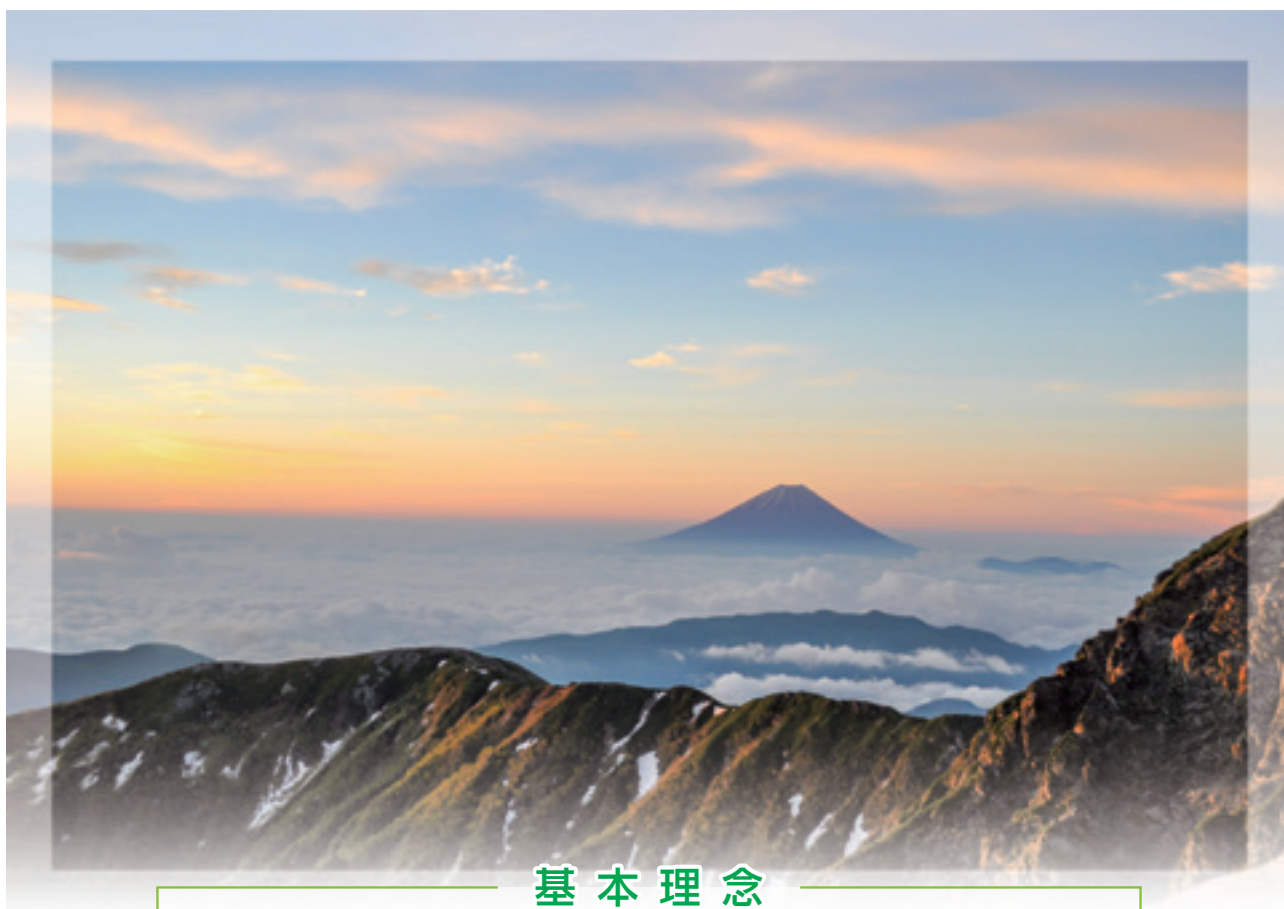




国立病院機構(NHO)宇都宮病院院内広報誌



基本理念

私たちは、地域から強く信頼される病院を目指します
そのために、誠実で前向きで勤勉であるよう努めます

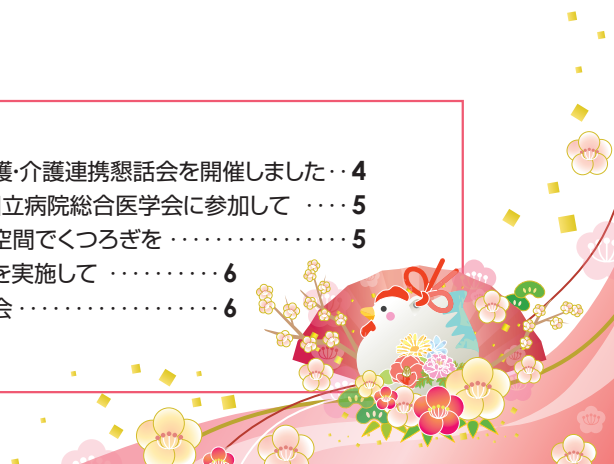
目

次

20 **冬** 17
第42号
広報誌 / 年4回発行
発行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：平成 29年1月1日
発行責任者：沼 尾 利 郎

- 新年のご挨拶 1
- 基準範囲とは 2
- 消費期限と賞味期限の違い 2
- 医療安全研修会 3
- 第5回 国立病院機構宇都宮病院
連携医大会が開催されました 4

- 第一回看護・介護連携懇話会を開催しました... 4
- 第70回国立病院総合医学会に参加して 5
- 家庭的な空間でくつろぎを 5
- 消防訓練を実施して 6
- 防犯研修会 6



新年のご挨拶

— 伝統と革新 —

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は当院にとって「大きな変革の年」でした。3月には病棟・外来・管理棟や敷地整備を含めた「病院の全面建て替え」が機構本部から承認され、2019年の完成を目指して基本設計がスタートしました。また4月にはDPC（包括医療費支払い制度）を導入し、医療の質の向上と経営の更なる効率化に取り組んでいます。一方、将来の社会構造（少子高齢化）や医療ニーズの変化に対応する医療提供体制を考える「栃木県地域医療構想」が策定され、古い伝統のある当院も時代や社会の変化に応じて変わり続ける（革新）必要があります。

「伝統と革新」といえば、日本の伝統的な木版画に新しい西洋画の要素を取り入れ、明治・大正・昭和にかけて活躍した吉田博（1876-1950）の生誕140年を記念した回顧展を観る機会が昨年ありました。水彩や油彩で才能を発揮した博が木版画を始めたのは40代後半ですが、それは西洋画の微妙な陰影を版画で表現しようという前代未聞の挑戦でした。自然を描き続けた博の作品は水の流れや光の移ろいを驚くほど繊細に表現しており、その清新で透明感のある作品は海外でも高く評価されています。激動の時代に新しい表現を追い求めた吉田博のように、当院にも時代や社会の変化に対応してチャレンジし続けることが求められています。



光る海（1926年）吉田 博

今年の干支（えと）は酉（トリ）ですが、「果実が極限まで熟した状態」という酉の由来から「物事が頂点まで達した状態」が酉年と言われており、習い事で結果が得られたり学問や仕事で成果が得られるかもしれません。イギリスのEU離脱やアメリカの新大統領のように何が起こるか予想のつかない現代では、医療を取り巻く環境も大きく変動している状況ですが、時代がどんなに変わろうとも私たちがなすべきことは変わりません。地域との連携をより一層推進させながら、治らない病気や重い障害があっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を目指して努力いたしますので、本年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

基準範囲とは

臨床検査科 血液主任 大島 英男

基準範囲は、病気ではなく健康な人の測定値から求めた範囲で健康な人の95%の人が含まれます。

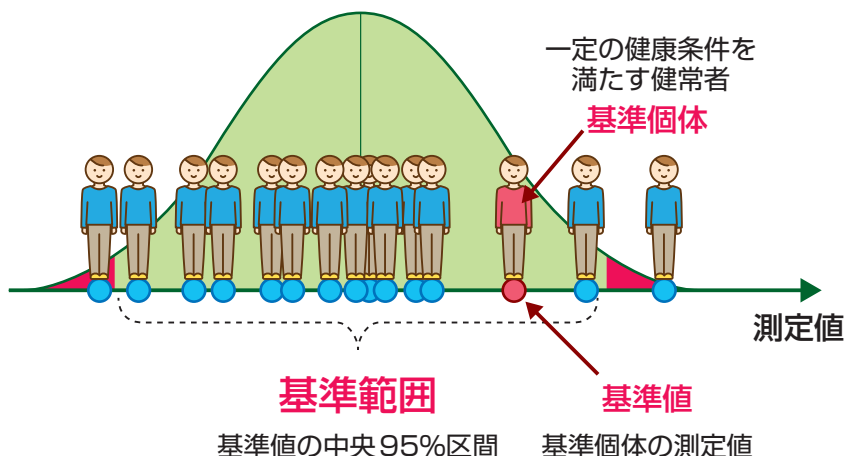
臨床検査が始まった頃は、採血して測定した時の測定値を正常値と比較して判断していました。正常値は各施設独自に求めたもの、試薬メーカーの値、学会の値等、様々な値が使用され施設間で違いがありました。

そこで、国立病院機構の病院では2003年に生化学19項目、2004年に血液7項目の推奨基準範囲が設定されました。推奨基準範囲は統計によって算出された値と臨床上的判断値が混在する形で設定され、測定値に対する評価はバラバラのままでした。

当院を含む機構内の病院では推奨基準範囲がありますが、他の病院間では別の基準範囲があり共通の基準範囲がありませんでした。そこで、日本臨床検査標準協議会(JCCLS)が共用基準範囲を2016年4月1日に発表しました。

共用基準範囲は健康な人の95%が入る値で、臨床上的判断を含みません。特定の疾患や病態、治療の目標などを考慮していませんので注意が必要です。

当院では2017年1月1日より導入しています。



消費期限と賞味期限の違い

栄養管理室長 青木 緩美

多くの食品には消費期限もしくは賞味期限が記載されています。食品を購入する時は必ず見ているという方も多いのではないのでしょうか？この表示制度は平成7年4月、“製造年月日”表示から“消費期限”または“賞味期限”表示に切り替わったことが始まりです。それぞれの定義は、以下の通りです。

消費期限

品質の劣化が早い食品に表示されています。

「食べても安全な期限」のため、それを過ぎたものは食べない方が安全です。

賞味期限

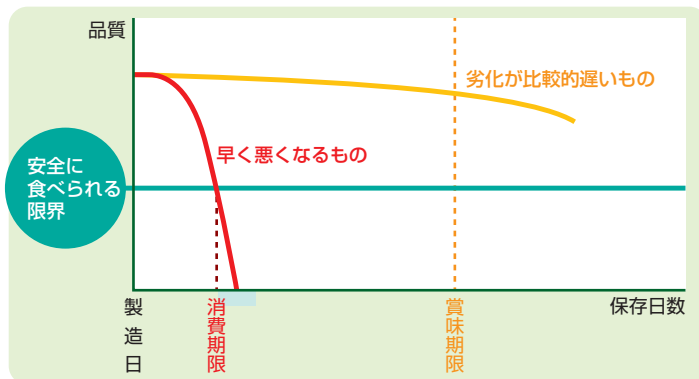
長期保存ができる食品に表示されています。

「おいしく食べられる期限」であり、それを過ぎてもすぐに食べられなくなるわけではありません。

※ちなみに賞味期限の表示方法は、3ヶ月を超えるものは「年月」で表示し、3ヶ月以内のものは「年月日」で表示することが基本ルールです。

ただし、どちらの期限についても「開封前」を前提に表示しています。開封後は所定の保存方法を守り、早めに召し上がっていただく必要があります。

安全に美味しく食事をするために、期限の表示ルールを覚えておくと良いかもしれません。



医療安全研修会

医療安全管理室 医療安全管理係長 山口 ふき江

医療安全管理室では、安全な医療の提供を目的に、全職員を対象とした研修を企画、運営しています。今回は、「職員みんなで行う救命処置」をご紹介します。

「救命の連鎖」という言葉をご存じの方も多いと思います。質の高い心肺蘇生法をチームで実施することは救命率の向上につながります。今回、改訂された新しいガイドラインに基づき、救命処置の方法について研修を行いました。医師・看護師・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・栄養士・保育士・MSW・事務職員など、職種を問わず 100 名以上の職員が受講しました。



まずは、統括診療部長兼医療安全管理室長の増田典弘医師が、救命処置の初期対応の重要性や効果的な方法について講義を行い、その後は 3 人一組のグループにわかれ実技演習を実施しました。

演習では、予め示した状況設定をもとに、グループ内で役割を決め、モデル人形を使用し、意識の確認や胸骨圧迫法、AED の使い方を実践しました。

今回、実技演習を担当したのは院内の救急蘇生チームのメンバーです。救急蘇生チームは、質の高い救急蘇生法の普及に向け、自ら学びながら研鑽しています。

研修を受講した職員からは、「緊張感があり、実技演習では手が震えた」「突然このような事態が起きた時、今回のような研修を受けていれば、あわてず対応できる」「ガイドラインは更新されるので、新しいことに対応できることが大切である」「3 人のグループで行うので、チームワークが大切だと思った」「指導者のアドバイスが的確で実技ひとつひとつにアドバイスをもらい、とても勉強になった」等多くの声が聞かれ、救急蘇生に関する資格取得に意欲的になった職員もいました。

突発的に発生した緊急事態に、冷静かつ迅速に、質の高い救急蘇生法を実践するためには、継続したトレーニングが必要です。今後も救急蘇生チームを中心に定期的に講習会を開催し、医療の質の向上とチーム医療の充実につなげていきたいと考えます。



救急蘇生チーム

第5回国立病院機構 宇都宮病院連携医大会が 開催されました

地域医療連携室 地域医療支援係 深澤 忠

平成28年10月20日、第5回目となる国立病院機構宇都宮病院連携医大会が盛大に開催されました。ご多忙中にもかかわらず、栃木県医師会副会長前原先生、宇都宮市医師会長片山先生、塩谷郡市医師会長岡先生をはじめ、連携医の先生方や連携医療機関の関係者など、多数の皆様にご出席を賜りましたこと、この場をお借りいたしまして心より感謝を申し上げます。

今回は、平成26年11月に開棟した「地域包括ケア病棟」の現状と今後について、増田地域医療連携部長による講演が行われました。宇都宮市内唯一の地域包括ケア病棟となっているため、参加いただいた先生方から沢山のご質問が出され、地域包括ケア病棟への関心の深さを改めて実感しました。

懇親会は、佐藤新地域医療連携室長の乾杯でスタートし、各診療科の案内などを交え、会食をしながらの情報交換の場として和やかで有意義な時間となりました。

今後も、「顔の見える連携」をモットーに連携室職員一丸となり、地域医療連携に取り組んでいきたいと思ひます。



栃木県医師会副会長 前原先生

第一回看護・介護連携懇話会を開催しました

地域医療連携室 医療社会事業専門職 永山 悦子

「顔の見える」地域との連携強化を図るため、平成28年11月17日(木)に「第一回看護・介護連携懇話会」を開催しました。当院では初の試みとなりましたが、宇都宮市内訪問看護ステーション看護師・地域包括支援センター及び市内北部・東部の居宅介護支援事業所ケアマネージャー69名と職員45名の参加があり、盛大に執り行われました。

懇話会開催にあたり、事前の聞き取りのなかで「書類のやりとりのみで先生のお顔がわからない」「どんな先生なのか知りたい」等の希望があったため、第一部では、診療部より各科診療案内と医師の自己紹介、看護部からは看護師長による担当病棟紹介・外来案内が行われました。自己紹介の中では、自身の趣味や星座・血液型・特技等を話される先生もおり、会場全体が和やかな雰囲気に包まれていました。

第二部では、宇都宮市医師会在宅医療部理事村井邦彦先生並びに、栃木県地域包括・在宅介護支援センター協議会会長浜野修氏より、地域包括ケアシステムの構築に向け医療・介護のより緊密な連携ネットワーク作りが必要であるとのお話をいただきました。会場は情報交換の場として熱気にあふれ、各テーブルからは参加者と職員の笑い声や歓声が上がっていました。

2時間という限られた時間でしたが、参加者からは「全職員が一丸となって地域との連携を推めている姿勢に感激した」、「是非継続して企画して欲しい」等の言葉をいただくことが出来ました。今後も「顔の見える連携」から「心通う連携」を推進していきたいと思ひます。

第2回目は、宇都宮中央・西部・南部の事業所を対象として平成29年2月に開催を予定しております。



各科診療案内と医師の自己紹介



和やかな雰囲気に包まれた懇話会

第70回 国立病院総合医学会に参加して

栄養管理室 栄養係主任 熊澤 勇介

さる平成28年11月11日(金)～12日(土)にかけて、沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館・ラグナガーデンホテル・カルチャーリゾートフェストーネの4会場にて、第70回国立病院総合医学会が開催されました。

「肺結核患者における入院時栄養状態についての検討」というテーマで、CONUT変法という栄養評価方法を用いて、肺結核患者の入院時における評価を行い、そこから栄養状態が年齢・BMI・摂食機能の各因子とどのように関連するか、また、退院時転帰にどのように影響するかについて、口演発表させていただきました。肺結核患者は一般に栄養状態が低下しており、またそれが治療に影響を及ぼすことが知られています。今回1年間に絞ってではありますが、入院時栄養状態を評価させていただく機会を得て、当院における現状を明らかにすることが出来ました。今後、患者さんの栄養状態の向上に資するべく、さらにエネルギー摂取量・合併症の有無などを含めての評価を行い、入院時スクリーニングとしての栄養状態評価項目について研究を進めていければと思っています。

最後に書面ではありますが、業務ご多忙の折にも関わらず、快く学会発表の機会を与えて下さり、またアドバイスや励ましの言葉をいただいた皆様に、心より感謝を申し上げます。



家庭的な空間でくつろぎを

療育指導室 児童指導員 野口 加代子

北病棟2階の重症心身障害病棟には2部屋の家族控室があります。ご家族が面会で来棟された時の休憩や利用者のご家族のふれあいで宿泊もできます。

部屋は10畳程のフローリングにベッド、バストイレ、テレビ、冷蔵庫などが完備され、大窓から降り注ぐ採光が明るく家庭的な雰囲気をかもし出します。

近年、家族の高齢化やご家庭のご事情等から利用者を外泊にお連れすることが難しい状況になっています。そこで、当院はご家族からのご希望を取り入れ2年前の新病棟建立時に、宿泊可能な家族控室を作りました。広い空間のため、利用者のベッドを居室から移動させ、一家団らんのひと時が過ごせます。

宿泊した家族からは「あると便利よね」「使いやすい」との声もあり、今後もたくさんの皆様にご利用して頂けるよう、より良い環境へ整えていきたいと思っています。





消防訓練を実施して



庶務班長 長谷川 克

平成28年度の消防訓練として、地震による北病棟4Fからの出火を想定して実施いたしました。

火災の原因が地震であるため、出火病棟だけでなく他の病棟の被害も考慮して消防訓練用資料を作成しました。

全体会議は、実施2週間前に開催することが出来ましたが、会議に於いて消防訓練での実施上の不具合などが指摘されたため資料の手直しを行い、訓練の日となる10月26日を迎えるはずでした。ところが、訓練前日、宇都宮中央消防署から、

全国ニュースでも報道された宇都宮市内で発生した連続爆発事件の事後処理のため訓練の立ち会いができないとの連絡があり、急遽自主訓練となりました。

当日、消防訓練は予定どおり進行し、訓練終了後は消防設備業者による消火器と屋内散水栓の使用訓練を行いました。反省すべき点は多々あると思いますが、消防署員が立ち会

わない異例の消防訓練は無事に終了することができました。

最後に、消防訓練にご協力いただきました関係者の方々に心よりお礼申し上げます。



本部への報告



初期消火



屋内散水栓の訓練



防犯研修会 (平成28年12月7日)

管理課長 河合 公生

常時、人や車の出入りが頻繁にある医療機関においては、事件事故等の発生に備え、防犯知識を深めておく必要があります。そのため、「病院での防犯対策」、「事件発生時の対応」、「深夜に出勤・帰宅する際の注意点」等について、宇都宮東警察署生活安全課にご協力いただき、防犯研修会を開催いたしました。

当日は看護師を中心に、医師やコメディカル職員など約50人が参加し、さすまたを使って暴漢から身を守る方法や、護身術で暴漢から逃れる方法を体験しました。

この研修会で講師を勤めていただいた宇都宮東警察署生活安全課の警部補より、「最も有効な防犯対策は“挨拶”すること」と教えていただきました。悪いことをする人は顔を覚えられることを嫌がりますので、病院職員からしっかりと“挨拶”されると「顔を覚えられたかな」と不安になり、犯行を躊躇させることに繋がります。また、もし暴漢に襲われたときの最も有効な手段として、助けを呼ぶために大きな声で“叫ぶ”ことも教えていただきました。

今回の研修会をきっかけに職員の防犯意識が深まること、そして定期的で開催することで一時的なものとならないよう、今後も継続して企画していこうと考えております。

< 研修風景 >



編集後記

新たな1年がスタートし、2017の干支は「酉」です。酉年は「【とり】こむ」で、商売に縁起の良い干支とされているようです。さらに酉年生まれの方は「面倒見が良く几帳面で行動力がある反面、妥協が苦手」という特徴があるようです。皆様の周りにいる酉年の方は、この特徴に当てはまりましたか?今年の「わかあゆ」も、当院の様子や取り組みを皆様に多く【とり】こんで頂けるような紙面づくりに努めたいと思います。

リハビリテーション科 理学療法士 月岡 亮



【夜明けの富士(北岳から)】
表紙撮影: 赤川一則さん

外来診療担当医表

(平成 29年 1月 1日現在)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合内科 (初診・予約外)		沼尾(第1・3・5週) 長谷衣佐乃(2週) 野村 由至(4週)	正和 明哲	安西真紀子	沼尾 利郎 志水太郎(3週)	池田 直哉 志水(第1・2・4・5週)
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	菊池 朋子	友常 孝則	佐藤 稔	森 豊
	午後	佐藤 稔			佐藤 稔	
神経内科	午前	作田 英樹			伊藤 雅史	
	午後	作田 英樹			伊藤 雅史	
物忘れ外来(午後・予約制)				伊藤 雅史		
消化器内科	午前	常見美佐子	菅谷 洋子	鈴木 統裕	菅谷 洋子	前田 光徳
	午後	常見美佐子	菅谷 洋子	鈴木 統裕	菅谷 洋子	前田 光徳
呼吸器内科	午前	森田 弘子	野村 由至	長谷衣佐乃	沼尾 利郎	勝部 乙大
	午後	森田 弘子/ 沼尾 利郎	野村 由至/ 正和 明哲	長谷衣佐乃/ 安西真紀子	沼尾 利郎	勝部 乙大/ 池田 直哉
禁煙外来(保険適用) (午後・予約制)						沼尾 利郎
小児科	午後		影山さち子 (予防接種) [予約制]		影山さち子 子供養育相談ルーム [予約制](2・4週)	
外科	1 診	増田 典弘	芳賀 紀裕	滝田 純子	増田 典弘	滝田 純子
	2 診	尾形 英生	柴崎 雄太	増田 典弘	尾形 英生	芳賀 紀裕
	3 診					田嶋 公平 (呼吸器外科)
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶藷 昌明 (初診のみ)	田中(第2・3・4週)	茶藷(第1・3・5週) 石川(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	小牧 宏和		百武(第1・5週) 茶藷(第2・4週) 熊谷(第3週)	小牧(第1・3週)	百武 剛志
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶藷 昌明	茶藷 昌明	熊谷 吉夫
装具外来		田中 孝昭				熊谷 吉夫
側湾症外来					茶藷昌明(4週)	

● 一部の診療科(下記)は入院患者さんを中心に診療しております。

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
循環器内科	午前		田所寿剛(1.3.5) 伊藤 致(2.4)	柴田 佳優		伊藤 致(2・4週)
	午後	米田 秀一 (15:00~16:30)	田所寿剛(1.3.5) 伊藤 致(2.4)	柴田 佳優		伊藤 致(2・4週)
腎臓内科	午後				岡田和久(2・4週)	
歯科		渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
眼科(午後・予約制)						松原 忠之/ 和泉田真作
皮膚科(午後・予約制)				齋藤 友紀		
耳鼻咽喉科(午後・予約制)		永島 祐美				

外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30~11:00迄です。
緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 物忘れ外来につきましては、地域医療連携室にて電話での予約を受け付けております。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)
担当(ソーシャルワーカー): 永山・畑野・高德・市村・齋藤・野中(内線133)



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

<http://un-hosp.jp/>